

日高市で一番最初にできたニュータウン「日高団地」。このまちに暮らす人々の今をお届けします。



勉強してもいいし、 ただ遊ぶだけでもいい。

新しい年が始まったばかりの1月4日(日)、「みどりのサロン」(日高市高萩東)において子ども向けのイベントを実施しました。冬休みの宿題を片付けてしまおうという趣旨によるもので、「新年早々どうかなあ、人が集まるかなあ」と思いながらの実施でした。

ふたを開けてみると、来てくれました。午後1時のスタートでしたが、ちょうどの時間に男の子が2人。サッカー好きの6年生、友だち同士のようです。

「来てくれてありがとう。何をやる?宿題持ってきた?」と声を掛けると、「宿題はもう済ませ

た」とのこと、大型テレビに映し出された全国高校サッカー・順々決勝「鹿島学園×興國」の試合をながめながら、場の空気に馴染もうとしているようでした。

「じゃあ、絵を描くか」となり、紙と画材を用意すると、慣れているのか、2人ともフリーな感じでスラスラと描き始めます。それがですね、写真を見てもらえばわかるように、オリジナリティに溢れていて、ちょっと驚きの出来でした。

そうした時間にも飽きて、男の子二人は帰途に。彼らと入れ替わるように来てくれたのが、女の子2人組。彼女らも6年生の友だち同士のようで、しばらくはおしゃべりに夢中でした。

「宿題は?」の問い合わせに、そのうちの一人が「家から持ってくる」と駆け出していき、みんなで算数のドリルを取り組むことにします。短い時間で

すので、多くの問題は解けませんでしたが、6年生になり計算の手順が複雑になる文章題や、工夫して計算をやりやすくする円の面積などに取り組むことができ、中学生になる前に算数への苦手意識の解消に少しは役立てることができたようです。

実はこうしたイベントを昨年夏休みにも実施。その時は初めてということもあり、様子見なのか大人が多く参加。今回は子どもが自分たちの意志でフラッと立ち寄ってくれて、とてもいい雰囲気になりました。女の子たちは「また参加したい」と言ってくれ、通りかかった年配者たちも、「今日は何?」「いいことやってるね」と関心を示してくれていました。続けて実施できると、いいのですが…



■フリーペーパー「住め日高」1~4号を発行。

文化新聞の連載記事「のこしたい店・たのしみな店」における「スーパーみどりや」への取材をきっかけに、元気なシニアが活躍する日高団地に可能性を感じ、フリーペーパーを発行(取材執筆:いいデザイン グラフィックデザイン:黒田デザイン事務所 / 日高団地自治会の協力のもと、日高団地全戸配布)。



賢くて、ノリのいい子たちは



主催は「スーパーみどりや」です。手順を理解することが大事!」柳川店長の指導に熱が入ります

●スーパーみどりや

日高市高萩東2-24-1 8:30~13:00 15:00~19:30 日祝休